

「文化首都京都の市長候補を京都市民で考える会」

提 言

1. 私達の考える市長像・要件

- ① 市民の心根を理解できる、京都に地縁・血縁のある人。
- ② 行政組織としての京都市を運営する管理能力・人柄。
- ③ 健康と3期務めうる年齢。
- ④ 府・市協調できる人物。
- ⑤ 市収入の35%が交付税、補助金であり、文化庁移転等直轄プロジェクトも多いので、中央との人脈・折衝能力。

2. 私達の考える市長としての基本姿勢

- ① 京都市は京都市民のものであり、日本の文化首都でもある。市長には市民の声を大切に、京都市を維持、発展させる文化的素養と熱意が必要。
- ② 市民と可能な限り触れ合った門川市長の現場主義の姿勢は大切にする。
- ③ 行政サービスのニーズは各々の立場や地域で異なるので、施策の取捨選択は独断やポピュリズム的判断を避け、市民代表の議会と対話し、長期的総合的に判断する。

3. 私達の考える京都市財政の在り方

- ① 京都市財政は令和4年度に黒字に転換したが、今後とも各年度黒字化に努め、その1/2を地方財政法に基づき減債基金に繰り入れる。
- ② 現在の地方財政制度では、公営企業と公共事業以外の財源としての市債発行は認められないので、自然増収以外の新税収の確保（ふるさと納税の推進、高額料金への宿泊税率の引き上げ等）に努める。

- ㊦ 市債対象外のサービス（医療、子育て、住民定着等）は、スクラップアンドビルドが必要になる。
独断を避け、長期的視野で市民合意の下に行う。
- ㊧ 国との連携、西脇知事との府市協調の下、オール京都の活性化と府市二重行政の回避。
- ㊨ 国道1号線（五条通）、8号線（縦貫道路）、24号線（烏丸道）等国直轄の交通網、文化庁、国立大学法人、国際会議場等の国の施設等への提言、活用を図る。

4. 私達の考える市民サービスの在り方

- ㊩ 自治体も企業も黒字化は存続の必要条件。黒字（利益）が十分条件の企業と異なり、自治体の十分条件は財源の範囲内での住民サービス（支出）の提供。
- ㊪ 安心・安全な京都市の為、災害や感染症への平時からのリスク管理を徹底する。老朽化した生活インフラ（橋、水道）更新の為、国への支援要請に努める。
- ㊫ 京都が誇る小学校区単位の各種ボランティア組織の市行政への活用、協力を考え、地域住民の身近なニーズに応える。その為の助成を考え、独居、孤独、高齢者家庭を地域ぐるみで支える。
- ㊬ 住民、特に若年層の定着、定住を図る。教育や育児、例えば小中学校の給食費無料化、政令市最高水準の児童医療費軽減措置、保育対策の充実に更に意を以てる。
- ㊭ 空家が増えているので、地域を指定し、主要道路に面しない空家を市が取得（購入、借り入れ）し、安価に貸し出し、若年層の定住を図る。
- ㊮ 市民との定期的な意見交換の場を設け、京都経済の将来を展望した魅力ある経営・雇用環境の整備に努める。未組織の中小下請けや個人事業主の声を企業等に届ける。
- ㊯ 伝統産業、無形文化財を産業と文化の両面から位置づけ、その支援に努める。

（以上）

文化首都京都の市長候補を京都市民で考える会

名

簿

(アイウエオ順)

浅野雄祐

磯橋輝彦

植松三博

内田隆

◎ 遠藤彩音

岡野真之

小澤達也

金剛龍謹

佐々木晃

田邊道夫

◎ 谷口洋子

土渕誠

冨家靖久

濱崎加奈子

原田英彦

納屋嘉人

◎ 平井誠一

藤井聡

◎ 村田晃嗣

(◎印・世話人)